



Junior Doctor
Hiroshima University

2021年度活動報告書

目 次

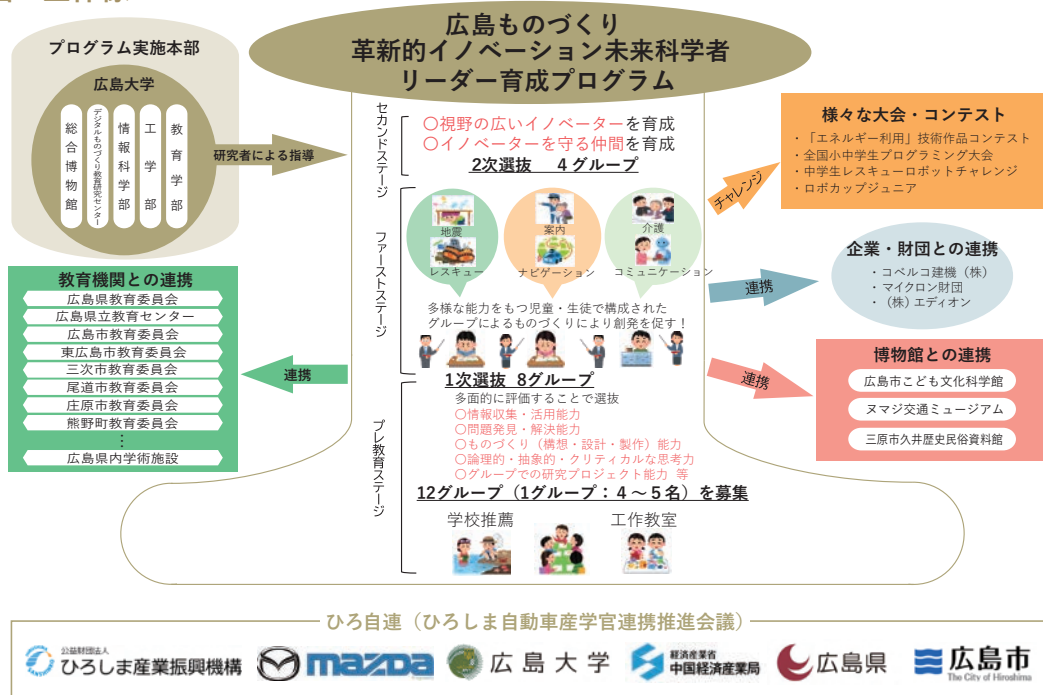
「ジュニアドクター育成塾」の概要	1
特色	1
企画の全体像	1
実施体制	1
プログラムの取組内容	2
三段階の教育プログラム	2
各ステージにおける育てたい人物像	2
2021年度スケジュール概要	3
受講生の募集状況・選抜状況	4
受講生の参加実績	5
[第1期生 活動実績]	
第1期生セカンドステージ活動実績	6
[第2期生 活動実績]	
第2期生ファーストステージ活動実績	8
第2期生セカンドステージ活動実績	10
[第3期生 活動実績]	
第3期生プレ教育ステージ活動実績	11
第3期生ファーストステージ活動実績	12
フォローアップ	
フォローアップセミナー（マイクロンメモリジャパン(株)共催）	14
評価結果レポートによるフィードバック	15
エゴグラムの活用	16
2020年からの GSC 広島との連携	17
受講生と保護者の感想	18
セミナー・ラボ活動担当一覧	19

「ジュニアドクター育成塾」の概要

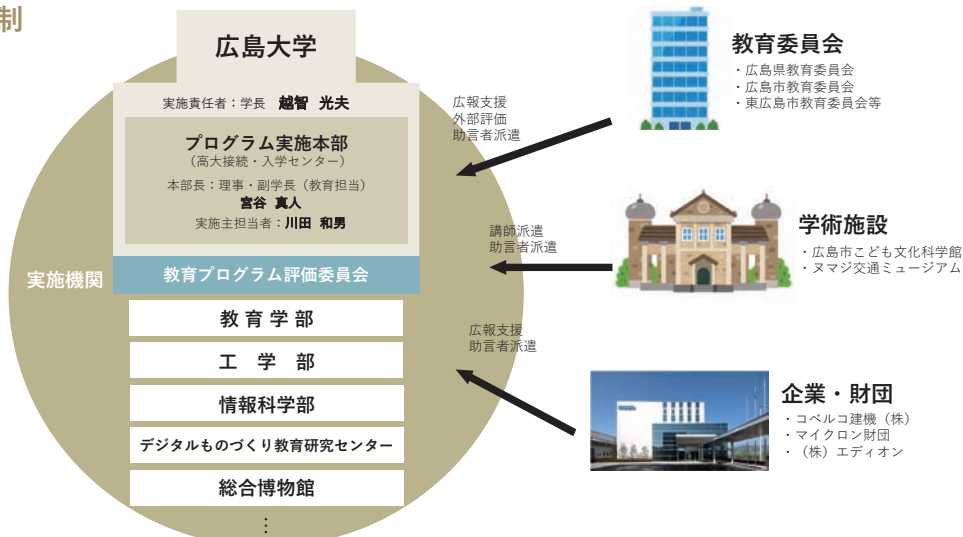
特色

ものづくりをととして児童・生徒がもつ数理・情報分野に対する興味・関心を飛躍させ、将来、人・社会の諸課題に果敢に挑戦し、21世紀に必要な人材、我が国のこれまでの科学技術の繁栄を継続させながら、その礎のもとに持続可能な社会を発展させていくことが出来るような革新的イノベーションを起こす傑出したリーダー人材及び革新的イノベーションを起こす人を支える傑出した人材を育成することを目的とする。また、児童・生徒を個々人に切り分けて個別に指導するのではなく、希望するラボに配属させグループとして能動的に活動させることで、多様な能力をもつ児童・生徒が互いに認め合い、一人ひとりの特性を活かした有機的かつ機能的な相互関係を築く力を育成する。

企画の全体像



実施体制



プログラムの取組内容

三段階の教育プログラム

プレ教育ステージ

研究者倫理、情報検索セミナーなどを実施し、ものづくりを通した課題解決のモチベーション向上、論理的抽象的推論や思考、多面的な見方などを促進させる学習を進め、探究活動や課題研究を行います。

ファーストステージ

ものづくりやプログラミングの基礎的な内容に関する合同セミナーを受講しながら、既存の研究を調査し、構想を行い設計し、プロトタイプを製作する課題研究に取り組みます。
また、希望するラボ（テーマごとの研究グループ）に配属します。

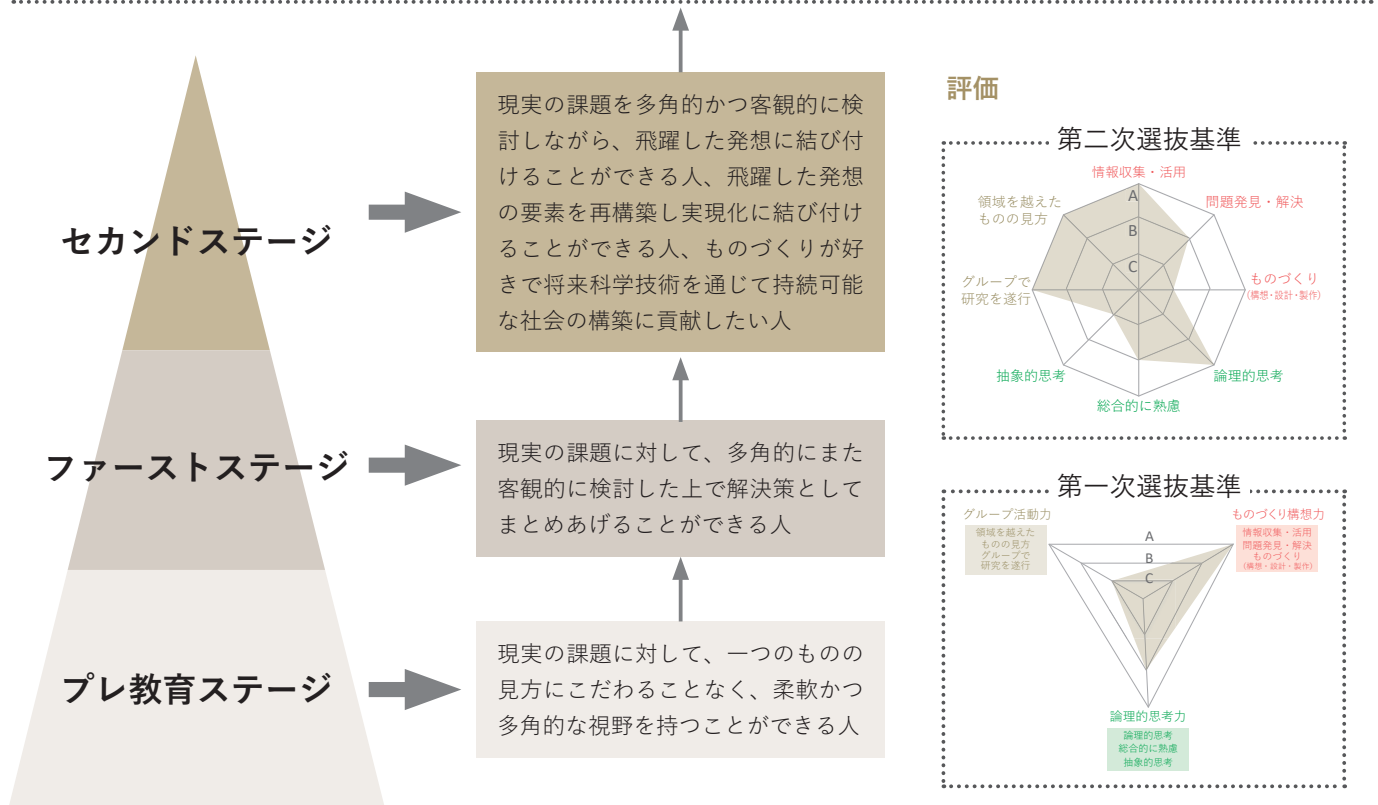
セカンドステージ

ファーストステージで配属されたラボにおいて課題研究を展開します。このとき、企画書に適合する大会やものづくりコンテストにグループで参加してもらい、外部からの評価を受けることでさらなる見識を広げます。

各ステージにおける育てたい人物像

革新的なイノベーションを起こす傑出したリーダー人材（視野の広いイノベーター）

革新的イノベーションを起こす人を支える傑出した人材（イノベーターを守る仲間）



2021年度スケジュール概要

取 組 内 容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1期生	セカンドステージ ・研究理論セミナー（オンライン） ・ラボ活動												
	・最終発表会 ・サイエンスカンファレンス							○	○				
第2期生	ファーストステージ ・リバースエンジニアリング ープリンターを分解・分析しようー ・アクティブラーニング（自宅課題） ー高性能の風力発電機をつくってみよう！ー ・「リーダーシップとチームワーク」セミナー ・ラボ活動												
	・最終発表会						○						
	セカンドステージへの選抜（約20名）							↔					
	セカンドステージ ・クルマのマフラーづくりを題材に「理科・社会・数学・美術」と「クルマづくり」とのつながりを体感するセミナー ・三原市久井歴史民俗資料館におけるセミナー ・土石流・三角州の地形の成り立ち、地形の歴史に関するセミナー												
第3期生	募集期間			↔									
	プレ教育ステージ ・ひろだい科学体験ツアー ・おもしろものづくり ーよく飛ぶ紙飛行機を作ろうー												
	ファーストステージへの選抜（約40名）							↔					
	ファーストステージ ・ラボ活動キックオフミーティング ・リバースエンジニアリング ープリンターを分解・分析しようー ・アクティブラーニングによるものづくり ー片てんびんを作ってみようー ・ラボ活動												

※新型コロナウイルス感染症の影響により、プレ教育ステージ・ファーストステージ・セカンドステージ実施予定のおもしろプログラミング、研究倫理セミナー、情報検索セミナー、連携企業によるセミナー、社会課題の発見を促す見学会、及び制御系設計（モデルベース開発）セミナー等を中止し、上記の通り内容を変更して実施しました。

受講生の募集状況・選抜状況

i) プレ教育ステージの募集

受講者数：113名（小学生：62名 中学生：51名）

広島市、福山市、呉市、東広島市、三原市、尾道市、熊野町から申し込みがあり、県内から幅広く受講生が参加しました。

ii) ファーストステージへの選抜

以下を用いて40名程度（約8グループ）を選抜します。

- ・プレ教育ステージ（研究者倫理、情報検索セミナー）の事後レポート
- ・志望理由レポート
- ・受講生が持つテーマ要旨（企画書）
- ・ブレ・ポジションペーパー

2021年度は43人のファーストステージ受講者を選抜し、42人がセミナー等を受講しました。

iii) セカンドステージへの選抜

以下を用いて20名程度（約4グループ）を選抜します。

- ・ファーストステージ（リーダーシップセミナー等）の事後レポート
- ・ファーストステージでのラボ活動のポートフォリオ及び最終発表会※
- ・学生メンターによるラボ活動での受講生の活動報告※

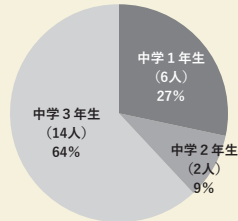
※グループ評価と個人評価の両方を行う。

2021年度は20人のセカンドステージ受講者を選抜し、17人がセミナー等を受講の上、修了しました。

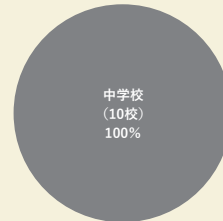
受講生の参加実績

セカンドステージ (第1期生)

< 学年 >

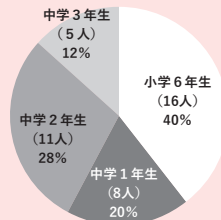


< 学校 >

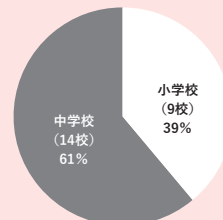


ファーストステージ (第2期生)

< 学年 >

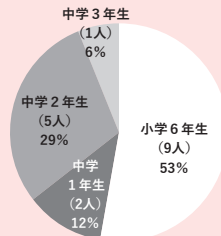


< 学校 >

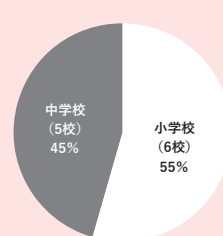


セカンドステージ (第2期生)

< 学年 >

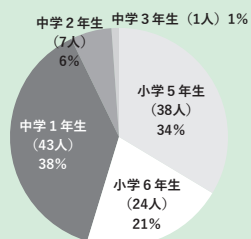


< 学校 >

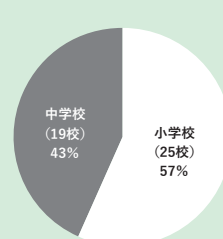


プレ教育ステージ (第3期生)

< 学年 >

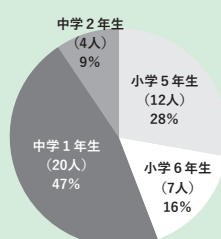


< 学校 >

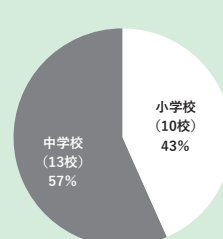


ファーストステージ (第3期生)

< 学年 >



< 学校 >



第1期生
セカンドステージ活動実績

研究理論セミナー（オンライン）

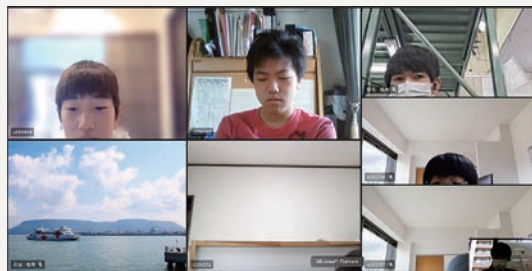
8月

対面でのセミナーができない状況が続き、Microsoft Teamsによるオンデマンドセミナー（研究倫理セミナー）を開催しました。本セミナーでは、課題解決に必要な広い視野、共同活動の重要性、ものづくりや研究に必要な基本的ルールについて講義を行いました。

ラボ活動

4月～9月

新型コロナウイルスの感染症対策を徹底して活動することに同意していただき（同意書提出）、オンラインと対面でグループ毎の活動を行いました。



最終発表会

10/3(日)

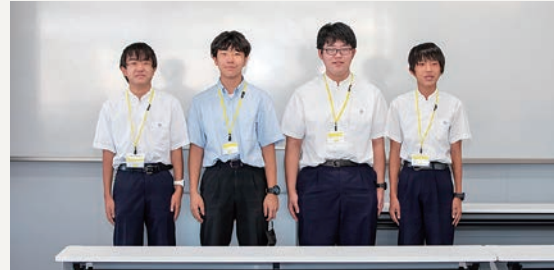
広島大学東千田キャンパスでセカンドステージ最終発表会を開催しました。当日は受講生しか参加できなかったため、ビデオ撮影を行い、所属の小中学校及び保護者に当日の様子を配信しました。

各グループのテーマ



グループ1

発電のエネルギー源としての水素に関する実験と考察



グループ2

自動車の走行速度抑制を目的としたパッシブハンプの開発
—エネルギーを用いた最適設計の考察—



グループ3

「非常時」と「平時」に活用できるユニバーサルレスキュー
ロボットの開発—下水管内の移動方法の検討—



グループ4

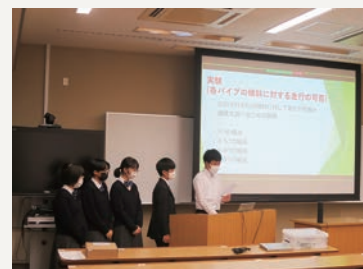
展示用オオサンショウウオロボットの製作

サイエンスカンファレンス

11/6(土) 7(日)

全国のジュニアドクター育成塾の受講生が集まり、地域や専門分野を超えて交流・啓発し合い、さらなるステップアップを目指しました。広島大学からは1期生セカンドステージより2チームが事前に動画撮影を行い、当日はオンラインにてカンファレンスに参加しました。

グループ2はチャレンジ賞、グループ3はアイデア賞を受賞しました。



第2期生
ファーストステージ活動実績リバーズエンジニアリング—プリンターを分解・分析しよう—
((株) エディオンとの共催)

7/4(日)

構想・設計・製作という順方向的な取り組みだけでなく、製品を分解すること（逆方向的な取り組み）で希望の動作をどのように実現しているか、気づかせることを目的として実施しました。



自宅課題

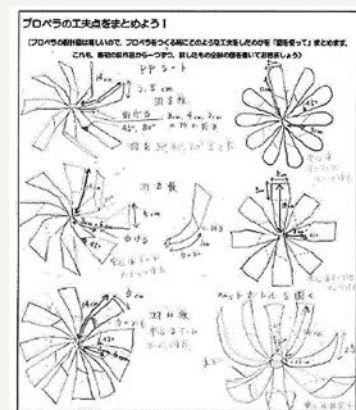
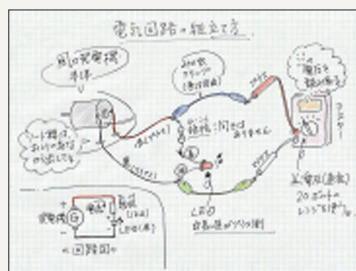
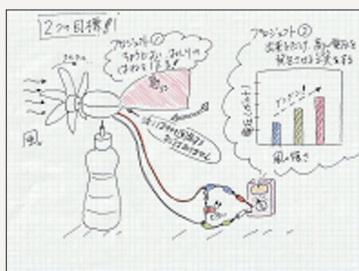
7月

受講生にもものづくりにチャレンジしてもらうため、自宅のできる課題に取り組んでもらいました。

アクティブラーニング

—高性能の風力発電機をつくってみよう!—

風力発電機キットを組み立て、最終的に性能の良い発電機を完成させる。

「リーダーシップとチームワーク」セミナー（オンライン）
（マイクロンメモリジャパン（株）との共催）

8/21(土)

企業におけるリーダーシップの観点を軸に、「仕事」、「チーム」、「パフォーマンス」、「コミュニケーション」、「数学的思考」の要素を用いてグループワークを行いました。理数系の理論的思考（発見・仮説・検証・評価・改善）の重要性を知る活動となりました。

ラボ活動

5月～9月

新型コロナウイルスの感染症対策を徹底して活動することに同意していただき（同意書提出）、オンラインと対面でグループ毎の活動を行いました。



最終発表会（オンライン）

9/26(日)

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでファーストステージ最終発表会を開催しました。

各グループのテーマ

グループ1

高速道路のサグ部における交通渋滞の解消について

グループ2

自転車の危険予告機能の検討

グループ3

人が陶芸品に対して抱く価値観を分析するシステムの考察

グループ4

サイロ内救助ロボットの研究
[サイロのヒーロー！救助ロボぐらりん]

グループ5

環境に役立つゴミ箱の研究

グループ6

災害時の地面の硬さを自動で判断する靴の開発
～山中式土壌硬度計のデジタル化～

グループ7

池や河川の水質を評価・改善する

グループ8

砂浜のごみを回収するロボットの開発
一砂の中からごみを回収する装置の検討ー



第2期生
セカンドステージ活動実績

クルマのマフラーづくりを題材に

10/24(日)

「理科・社会・数学・美術」と「クルマづくり」とのつながりを体感するセミナー
(ひろしま自動車産学官連携推進会議との共催)

美術的なデザインと排気音を消音するデザイン（設計）について学習し、紙箱やペットボトル等を用いてマフラーづくりを行い、消音性能を音響解析装置により計測しました。代表的なモデル（「拡張」「拡散」「共鳴」）を活用すること、データを活用し定量的に評価することを目的として実施しました。



三原市久井歴史民俗資料館におけるセミナー

12/19(日)

現代社会の問題を発見し、どのように解決・発展してきたのか、三原市久井歴史民俗資料館で学びました。

土石流・三角州の地形の成り立ち、
地形の歴史を3Dプリンターで再現してみよう

3/27(日)

広島市内で想定される自然災害である土石流を内水氾濫の特徴を紹介するとともに、ハザードマップや地理院地図の使い方を学び、3Dプリンターで作成した地形モデルを活用して、受講生自身で地形モデル上に、ハザードマップや地形の情報を追加する活動を行いました。

第3期生 プレ教育ステージ活動実績

ひろだい科学体験ツアー

7/18(日)

広島大学総合博物館やキャンパス内の自然、遺跡を見学することで、現代・過去の課題について様々な視点から見つめる態度を養い、未知の課題にも前向きに取り組む準備を行うことを目的として実施しました。



おもしろものづくりーよく飛ぶ紙飛行機を作ろうー

8/10(火)

簡単なものづくりを通じて、数理を活用した飛行機的设计・製作を行い、技術的・科学的な課題解決の基本的な方法について体験することを目的として実施しました。



第3期生
ファーストステージ活動実績

ラボ活動キックオフミーティング

10/17(日)

ファーストステージではグループごとにラボ活動を行うため、研究とはどのようなものかを、本企画実施担当者である広島大学人間社会科学研究科の川田和男准教授が分かりやすく解説しました。1期生のファーストステージでの研究ポスターや発表動画を視聴した後、グループごとに研究したい課題について話し合いました。

リバーズエンジニアリング—プリンターを分解・分析しよう—
((株) エディオンとの共催)

11/14(日)

構想・設計・製作という順方向的な取り組みだけでなく、製品を分解すること（逆方向的な取り組み）で所望の動作をどのように実現しているか、気づかせることを目的として実施しました。



アクティブラーニングによるものづくり

12/26(日)

—片てんびんを作ってみよう—

小学生や中学生にとって身近である片てんびんを扱い、設計自由度のある課題を与え、設計・製作する経験を通してものづくりに大切なポイントを学ぶことを目的として実施しました。



ラボ活動

新型コロナウイルスの感染症対策を徹底して活動することに同意していただき（同意書提出）、オンラインと対面でグループ毎の活動を行いました。

フォローアップセミナー（マイクロンメモリジャパン（株）共催）

ぶつからない車の動きを作ろう！

12/12(日)

ファーストステージの選抜で不採択となった生徒へのフォローアップとして、マイクロンメモリジャパン（株）との共催で「小・中学生対象プログラミング教室」を開催しました。学校で学習した算数（数学）や理科を使って、社会にある問題を発見し、解決する手法である「モデルベース開発」を用いたプログラミングを体験する機会を設けました。本セミナーには、地域の小中学生も受け入れ、合計95名がプログラミングを学びました。



評価結果レポートによるフィードバック

フォローアップの一環として、受講状況や提出物を評価し、その結果をまとめたレポートを受講者全員にフィードバックし、科学やものづくりに対するモチベーションの維持に努めています。

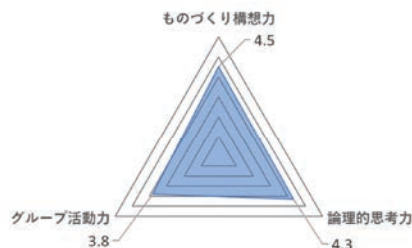
<レポート例>

2020年度広島大学ジュニアドクター育成塾 プレ教育ステージの評価結果について

学校名：〇〇〇〇〇中学校

氏名：〇〇 〇〇

この度は2020年度広島大学ジュニアドクター育成塾にご参加いただき、ありがとうございました。
プレ教育ステージを通して、あなたにどのような能力がどのくらい身についたか、その結果を以下のとおりお知らせします。この結果は、各能力6点満点で、セミナーでの受講状況や提出したレポートをもとに評価しております。今後あなたがそれぞれの能力を向上させ、「ものづくり」への興味や関心を高めてくれることを期待しています。



先生とメンターからのコメント

技術で習う構想図やいろいろな教科で見えるグラフ、考えを整理するマインドマップなどが出来たらあなたの強い味方だと思ってください。何が書いてあるか考えたり、自分で図を描く習慣を身に着けると、あなたの考える力は大きく伸びることでしょう。

2020年度広島大学ジュニアドクター育成塾 ファーストステージの評価結果について

学校名：〇〇〇〇〇小学校

氏名：〇〇 〇〇

この度は2020年度広島大学ジュニアドクター育成塾にご参加いただき、ありがとうございました。
ファーストステージを通して、あなたにどのような能力がどのくらい身についたか、その結果を以下のとおりお知らせします。この結果は、各能力6点満点で、最終発表会やセミナー等のレポート及びラボ活動の参加状況をもとに評価しております。今後あなたが「ものづくり」への興味や関心を高め、さらに研究に対する意欲を向上してくれることを期待しています。



広島大学の先生とメンターからのコメント

あなたには人の力を引き出す力があるのかもしれません。貴重な存在です。今後も、「なぜだろう、どうしてかな」など疑問を持つことを忘れないでください。時間はかかるけど、深く学ぶことができるし、その方が面白いですよね。これに加えて次のようなスキルをいっそう伸ばさせると一層深い思考や分析ができるようになるでしょう。(1)他の人の発言に対して、もう少し詳しく説明を頼んだり、わかりやすく言い換えて説明する。(2)意見のうち、似ているものとそうでないものを整理する。(3)色々な場合について、意見を比較する。(4)確かにその考えでできるかどうか検討する。研究活動に期待しています。今後も、「なぜだろう、どうしてかな」など疑問を持つことを忘れないでください。時間はかかるけど、深く学ぶことができますし、その方が面白いですよね。研究活動に期待しています。

所属の小中学校の先生からのコメント

メンバーとの活動で意見を出すこと・聴くこと・練りあうこと、実験を進めること等々、様々な体験を通して問いを見つたり、その解決に向けて取り組んだり、自分たちの考えを分かりやすく伝えたりといった力をつけてきたのだということが動画から伝わってきました。これからのさらなる成長が楽しみです。
(〇〇〇〇〇小学校 〇〇先生)

エゴグラムの活用

受講生に対し、TEG II 改（エゴグラム）※1を適用し、能力の伸長に関して評価を行いました。TEG II 改のエゴグラムの5つのパラメータ（最小値0から最大値20で表現）より、CP はリーダー力、NP はグループ活動力、A は論理的思考力、FC はものづくり構想力、AC はグループ活動力に対応すると考えられます。

評価の結果、AC のパラメータが全体的に低いことからグループ活動力を促すセミナーが必要であることを確認しました。また、受講生のエゴグラムの結果を用い、各パラメータが近い受講生同士をグループにしました。

エゴグラムによる個人の能力伸長

- ・受講生に対して TEG II 改（エゴグラム）を適用して、能力を確認
- ・評価の時期は、各ステージの開始時と終了時に確認

○以下は第1期セカンドステージ生及び第2期ファーストステージ生の測定結果

受講生の自我状態	受講生全体の平均	
	第1期 セカンド ステージ生	第2期 ファースト ステージ生
CP (Controlling Parent) : 理念力 正義感、道徳心、責任感など	13.7	14.3
NP (Nurturing Parent) : 支援力 寛容性、受容性、共感性など	14.7	15.4
A (Adult ego state) : 論理力 論理性、判断力、現実志向性など	14.0	15.2
FC (Free Child) : 活発力 創造性、好奇心、自発性など	14.7	15.2
AC (Adapted Child) : 協同力 協調性、忍耐力、礼儀正しさなど	11.5	10.7

本企画で重要視しているグループ活動力に関係する協同力が低い

コロナ禍での対面によるものづくり活動ができなかったことから全体的に値が低くなったと考えられる

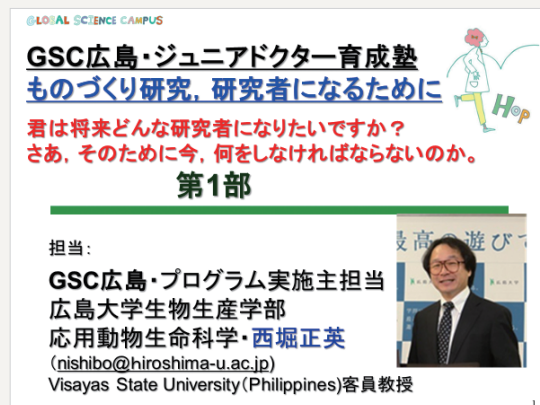
※1 エゴグラム：エリック・バーンの「交流分析」が基となる性格診断テスト

2020年からの GSC 広島との連携

GSC 広島とは、高校生を対象としたグローバルに活躍する自分の姿を想像できるようなプログラムを提供しており、将来にわたり「持続可能な発展を導く科学技術人材」を志す高校生の育成を目指している事業です。

● GSC 研究者セミナー ―ものづくり研究、研究者になるために―

ジュニアドクター育成塾は、小学生5・6年生と中学生を対象に行われていますが、高校生対象の GSC（グローバルサイエンスキャンパス）が連携企画としてあります。そのため、現在のジュニアドクター育成塾のラボ活動をさらに継続し発展させるためのセミナーを西堀先生にお願いしました。



GLOBAL SCIENCE CAMPUS

**GSC広島・ジュニアドクター育成塾
ものづくり研究、研究者になるために**

君は将来どんな研究者になりたいですか？
さあ、そのために今、何をしなければならないのか。

第1部

担当：
GSC広島・プログラム実施主担当
広島大学生物生産学部
応用動物生命科学・西堀正英
(nishibo@hiroshima-u.ac.jp)
Visayas State University (Philippines) 客員教授

● GSC 広島ステップステージ分野別セミナー

―里山のたからもの・オオサンショウウオを守ることに―

総合博物館 清水 則雄 准教授

ファーストステージのラボ活動で、オオサンショウウオを対象とした研究をしている小学生のグループに対して、GSC の分野別セミナーを受講する機会を設けました。高校生を対象としたセミナーでしたが、ラボ活動をさらに発展させる動機づけになりました。

● GSC 4 大学連携研究セミナー

GSC で行われているラボ活動の発表会に参加することで、ラボ活動に必要な情報収集、実験、観察、調査等の大切さを知る機会になりました。高校生に進学して、さらに深くラボ活動が進められることを勉強しました。

第1期生 セカンドステージ 修了者

3D プリンターを利用したり、プログラミングをしたりするなど、なかなか経験することができない体験が出来て、面白かった。自分達で研究を進めるプログラムを通して、様々な方向からものを見て課題を発見する力が身についたと感じた。生徒同士で研究成果を発表する機会もあり、スライドなどを使って分かりやすく発表する力も養うことができた。メンターの方々が、必要な時に手を貸し見守って下さり、研究を進めやすかった。
(中3)

自分で考えるだけでなく、同じグループの人と物事を共有することで異なる視線で考える事ができました。研究発表では、自分達と違ったジャンルで発表している他グループの研究活動を聞いて、着目の違いやこんな実験のやり方があるのかと驚きました。(中3)

動物をロボットとしてつくることが、どれだけ難しいかがわかりました。物事を考えて、作ったりするときに計算するなど数学の力を使えるようになったと思います。チームの人たちと、協力して進んで、作業したりできるようになりました。
(中1)



まず、身の回りにある問題について以前よりも関心を持つことができるようになったと思う。世の中には解決しなければならない問題が多くあるが、その中で私たちには何ができるのか考えることができるようになったと思う。また、問題に対してどのように解決すればいいか、どういう実験をすればいいかなど、見通しを持ちながら課題を進める力が身についた。実験から得たデータを表やグラフに整理して、そこから分かることをまとめたり、グラフや表を関連付けて考えたりすることもできるようになった。ジュニアドクター育成塾を通して、一人ではなくみんなで協力してアイデアを出し合い、考えることでより良い考えが生まれるのだということも実感した。みんなで話し合っ

て進めることで、よりよく、そして楽しく活動できたように思う。(中3)

第1期生 セカンドステージ修了 保護者

最初は何をするのか、どんなことをしたいのかも、多分理解出来ていなかったと思います。先生方やメンターの先生方、グループの皆さんと一緒に活動する中で、知識だけではなく、自らの探究心が芽生え、参加することがとても楽しかったようです。自分の頭で考え、言葉で伝え、手を動かして形にすることの楽しさと難しさを味わって成長する姿は、オンライン授業を傍目で見聞かしていても感じるがありました。

決められた時間の中で、取捨選択しながら一定の形にするところまで仕上げることや、一人ではなく仲間と一緒に考え進めていくことを通じて、その楽しさや難しさ、その先にある達成感や反省など、貴重な体験をすることができたと思います。メンバー全員がそろわないこともあっただろうに、よく最後まで頑張ったなと思います。また、コミュニケーション力や表現力が向上したように思います。

研究成果の発表会を見た時、あまり積極的に前に出るタイプではなかった我が子の成長ぶりに驚きました。研究内容も、先生方のサポートのもと、とても中学生とは思えない様な高度なもので、参加させて頂き良かったなと思っています。

第2期生 ファーストステージ 受講者

プログラムの作り方や回路の組み立て方について多くの事を知ることができました。また、こうすればいいんじゃないかという意見の交流をすることができて、自分のためになったと思えるところがあり良かったです。(中2)

ファーストステージ全体を通して、プログラムに取り組む際の順序を学ぶことができました。はんだづけなど技術的な面でも学べたことがあって楽しかったです。(中2)

最初に1期生の方たちがまとめた内容を見て、面白そうだな、すごいなと思い興味を持ちました。ファーストステージでの活動では、ロボットを振動させて砂に潜らせる救助ロボットについてまとめました。そこではどのような形がもぐりやすいのか、どのように救助すると傷つけないかなどを考えました。グループでプリンターを分解したときには道具の扱い方を学び、皆で協力して行うことができました。(中1)

セミナー・ラボ活動担当一覧

プレ教育ステージ			
・ひろだい科学体験ツアー	広島大学総合博物館 広島大学総合博物館 技術センター 人間社会科学研究科 人間社会科学研究科 人間社会科学研究科	清水則雄 黒島健介 塩路恒生 川田和男 鈴木裕之 鈴木裕之	准教授 学芸職員 技術専門員 准教授 准教授 准教授
・おもしろものづくりよく飛ぶ紙飛行機を作ろう			
ファーストステージ			
・リバースエンジニアリングプリンターを分解・分析しようー	人間社会科学研究科	川田和男	准教授
・アクティブラーニング（自宅課題）ー高性能の風力発電機を作ってみよう！ー	人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授
・「リーダーシップとチームワーク」セミナー	マイクロンメモリジャパン(株)	青木沙耶	様
・ラボ活動キックオフミーティング	人間社会科学研究科	長松正康	教授
	人間社会科学研究科	川田和男	准教授
	人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授
・アクティブラーニングによるものづくり片てんびんを作ってみようー	人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授
2期生ラボ活動指導教員			
グループ1：人間社会科学研究科	長松正康	教授	
グループ3：人間社会科学研究科	川田和男	准教授	
グループ5：人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授	
グループ7：人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授	
グループ2：人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授	
グループ4：広島大学総合博物館	清水則雄	准教授	
グループ6：人間社会科学研究科	川田和男	准教授	
グループ8：人間社会科学研究科	川田和男	准教授	
セカンドステージ			
・研究理論セミナー（オンライン）	人間社会科学研究科	長松正康	教授
・クルマのマフラーづくりを題材に「理科・社会・数学・美術」と「クルマづくり」とのつながりを体感するセミナー	マツダ株式会社 エンジン設計部 NVH 性能開発部	守本翔平 中山翔太 福谷和也 原田聖士 近藤晃拓 守屋孝大 時元省二 松崎葉子 熊原康博	様 様 様 様 様 様 様 准教授
・三原市久井歴史民俗資料館におけるセミナー	三原市教育委員会文化課		
・土石流・三角州の地形の成り立ち、地形の歴史に関するセミナー	人間社会科学研究科		
1期生ラボ活動指導教員			
グループ1：先進理工系科学研究科	神名麻智	助教	
人間社会科学研究科	鈴木裕之	准教授	
グループ3：人間社会科学研究科	長松正康	教授	
	川田和男	准教授	
グループ2：人間社会科学研究科	川田和男	准教授	
グループ4：広島大学総合博物館	清水則雄	准教授	



〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 教育室教育部入試グループ
TEL : 082-424-6172 Mail : nyusi-kodai@office.hiroshima-u.ac.jp
URL : <https://www.hiroshima-u.ac.jp/jrdr>



2022年3月発行